校長室だより

R7.1.28　Vol.36

学習発表会を終えて

無事、学習発表会を終えました。保護者の皆様、ご観覧ありがとうございました。いかがでしたか。どの学年も舞台せましと（本当にちょっとせまいんですが…笑）楽しく演技、発表できていたのではないかと思います。

1年生、大きなかぶの劇の中で小学生になってできるようになったことの発表。見ていて微笑ましかったですね。2年生、スーホと白い馬。難しい話ですが、子供なりに人物の気持ちを考えて表現できていました。3年生、戦時中の悲劇を頑張って表現していましたね。4年生、楽しかった1年間の様子が発表の随所に出ていました。5.6年生、さすが高学年。楽しんで表現している姿がよかったですね。どの学年も子供たちが一生懸命、何かを表現する姿に感動でした。来年度は真穴小150周年。何か思い出に残る発表にしたい!と只今、絶賛思案中です!

学習発表会　アナザーストーリー

発表会に向けての練習の様子を見させてもらった学年もあります。３年生！迫真の演技でしたね。中でも友靖君、何度やり直しをしていたでしょうか？うまくできずに、涙がこぼれる日もありました。戦時中のことなど、子供が容易に想像できるものではありません。でも、「もし自分のお父さんが、生きて帰れないかもしれない！って想像したら…」と考え続け、本番の演技になりました。もちろん、楽しい劇もウェルカムです。指導するならそっちの方が教師も子供もやりやすいかもしれません。ただよくわからないことだけど、一生懸命考えて「こんな気持ちじゃないかな？」と自分で答えを探してみる。３年生にとっては、発表会がそんな機会になっていたと思います。友靖君！すごくよかったよ！

四方山話真穴 ver.　其の三十六（立っとけ！）

ある指導者(教員ではありません。)と子供の話です。これはその子供の保護者が話してくれたものです。

『今日までにやってこい』と言われていた課題をその子供（当時2年生くらいだったとか）はやってこなかったようです。「それじゃ練習にならんやろが！そこに立っとけ！」とかなりの時間立たされたのだとか。迎えに行った保護者が「あんまりやないですか？」と言うと「やってくるべきことをやってないからです！」そんなやりとりになりました。帰宅して子供に「ひどいよね？」と話すと「いや！やっていってなかった僕が悪い！先生は悪くない！」そう言ったそうです。その後、みるみる力をつけ、（頑張れた時はめちゃくちゃ褒めてくれていたそうです。）その子が中学生になり、直接指導を受けることがなくなってからも、朝、少し回り道をしてその指導者が働いている仕事場の前を通り、「おはようございます。」と3年間ずっと挨拶を続けたそうです。

『立たせることをよしとしましょう』という話ではもちろんありません。ただこの指導者の方は、今、私たち教員が何か遠慮している、『叱るべきを叱る』ことを「当たり前のことです。」と言ってくれているような気がします。

どうお感じになりますか？十人いれば十通りの子育て論、教育論があります。絶対はありません。逆に絶対があるほうが怖いです。教員は教育のプロとして常に時代に合った教育をアップデートしていかなければなりません。でも変えてはならないものもあるはずです。『何を大事にするのか？』そこを保護者のみなさんと擦り合わせる、時には折り合いをつけていく。それが学校と保護者の連携なのだと思います。

私は校長として、これまで自分自身が進めてきた教育を振り返りつつ、全力で子供に関わってほしいと職員に指導しています。自分の生活を犠牲にしてとかではなく、どんな子供になってほしいのか？その思いを常に持ち続けてほしいと考えています。

切り取り線

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。